

新山城地域振興計画中間案（素案）に対する主な意見

第3回新山城地域振興計画策定懇話会（平成31年3月18日（月））

出席委員：大西座長、北川委員、松中委員、森委員、森下委員、森本委員

▶ 全般について

- ・今後、新山城地域振興計画が実効あるものとなるよう、市町村の総合計画・総合戦略と相互に整合を図るような調整や事業の進め方を工夫するとともに、市町村にとっても受け身とならないよう、府と市町村との意思疎通をお願いしたい。また、地域での自発的な取組が起りやすいような計画になれば望ましい。
- ・計画の内容が、一人ひとりに届き、浸透するようにお願いしたい。
- ・人口や労働など計画のフレームが書かれていないのではないかな。また、情報インフラやデータのオープン化などもあれば触れてはどうか。
- ・項目ごとのボリュームのバランスを再確認され、人権やけいはんな学研都市での取組などは強化してはどうか。

▶ 1 計画策定の趣旨（P1）

- ・地域で新たな取組をやるうとする方に対する行政の枠組を越えた応援として、スタートアップ支援に加えて、段階的支援のような工夫も含めたサポートのあり方や、相楽東部のように、府が広域的支援を責任持つて行うことも必要という視点があってもいいのではないかな。
- ・新総合計画との関係については、「連携して」といった記載の方がよいのでは。

▶ 2 地域特性（P3）

（4）産業

- ・山城には中小企業が多いということを記述してはどうか。

（5）基盤整備

- ・基盤整備には道路や鉄道の記述はあるが、例えばエネルギーや防災や情報インフラのこの記述がない。住み続けられる地域を考えた際に、現状あるもの（ストック）をどう守っていくのかという観点も必要。観光のところに情報発信は書いてあるが、情報に関してはインフラを整備するとは書いていない。災害多発地域でもあるので基盤整備のところに記述できないかな。

▶ 4 施策の基本方向（P5）

- ・横串として必要なことは、ほぼ盛り込まれているが、モビリティ構築のようなものについては、これまでのインフラ整備の成果など既存ストックを活用するという視点も重要ではないかな。
- ・人手不足など雇用や労働の問題についても触れてほしい。

▶ （1）新たな国土軸が横断する立地ポテンシャルを活かした、山城地域の均衡ある発展と府域の発展を牽引する地域づくりの推進

①木津川右岸地域整備の計画的推進（P6）

- ・「てこにして」のような表現が何度か出てくるが、てこにして実現しようとする内容に書き漏らしがないかよくチェックを。地域整備は、どこの地域のことを示しているのかも確認を。

▶ ②けいはんな学研都市と右岸整備が車の両輪となった京都イノベーションベルトの形成（P 8）

- ・学研都市の連節バスのように、今やっていることも盛り込んでいるか確認を。

▶ ③相楽東部の未来づくりの推進（P 9）

- ・マルチ交通は、一般的にはわかりにくいのでもう少し詳しく。また、スクールバスにも触れるとともに、ウーバー、乗り合い解禁などの新たな動きについても、どこかに書いておくとよい計画になると思う。
- ・相楽東部では民間の新しい動きの兆しもある。相楽東部はインフラなど基盤整備やイベントだけでなく、産業をどうしていくのかという視点が必要。過疎地域では物流がなく、物流の仕組みづくりが大きな課題。

▶ ■文化を活かした地域づくり（P 19）

- ・生活文化については、地域の暮らしのアイデンティティを支えるものであり、コミュニティの維持につながるという趣旨で記載してほしい。
- ・文化が消費されることが懸念されるので、文化の維持継承に力点を。また、外国人については、労働力としての視点だけでなく、生活を豊かにする国際的な文化交流についても触れてほしい。

▶ ②宇治茶・京やましろ新鮮野菜の生産振興・消費拡大による魅力ある農林業の確立（P 22～25）

- ・「お茶の京都」ターゲットイヤーの次の展開として、ロボットによる合理化やお茶の機能性など具体的に記述されていると思う。

▶ ③周遊・滞在型やましろ観光の新展開（P 26～28）

- ・観光分野の人材不足については、人材確保の仕組みを検討することや人材育成も大事。

以 上